

線量評価のための地域区分

グループ	地域	公衆の線量評価における空間解像度
1	人々が事故後、数日から数か月の単位で避難した福島県の地区	18の避難シナリオで特定された各地区における典型的な場所を使用
2	避難が行われなかった福島県の行政区画	外部経路及び吸入経路については行政区画レベル（各1km格子点で推定値に基づき行政区画レベルでの平均値を算出） 経口摂取経路については県レベル
3	福島の隣接県（宮城県、栃木県、群馬県、茨城県）又は福島県に近い県（岩手県と千葉県）	外部経路及び吸入経路については行政区画レベル（各1km格子点で推定値に基づき行政区画レベルでの平均値を算出） 岩手県における経口摂取による推定被ばく線量はグループ4と同じ、他の5つの県については、5つの県の平均に基づいた
4	その他の都道府県全て	外部経路及び吸入経路は県レベル 摂取経路についてはその他全ての都道府県平均

事故に伴う公衆の放射線被ばくは、場所によって異なります。また、避難をした人たちは、時間と共に場所を移動しています。

そこで国連科学委員会(UNSCEAR)は、公衆の被ばく線量を評価するために地域を4つのグループに区分し、被ばく経路によっては、更に狭い範囲を対象に線量を推計しています。表は、4つのグループの地域を示しています。

- ・グループ1: 人々が事故後、数日から数か月の単位で避難した福島県の地区
- ・グループ2: 避難が行われなかった福島県の行政区画
- ・グループ3: 福島の近隣県(宮城県、栃木県、群馬県、茨城県)又は福島県に近い県(岩手県と千葉県)
- ・グループ4: その他の都道府県全て

なお、福島県にはグループ1に分類される行政区画が12ありますが、事故直後12行政区画をカバーした18の避難シナリオがありました。したがって、12の行政区画の一部は、同時に複数の避難シナリオに関係していました。そこで、ある一つの行政区画内で避難シナリオに応じて考慮の対象になった特定の区域を代表するものとして「地区」という言葉が使われています。

【報告書記載箇所】

- ・UNSCEAR報告書(科学的附属書A, 日本語版P48～49, 第79～80項、附録C, P155～156, 第30～32項から作成)

本資料への収録日: 平成27年3月31日